**井上章一『日本の醜さについて　都市とエゴイズム』（幻冬舎新書、2018年5月）**

2021年2月24日　小林

**集団主義と個人主義**

* 日本人は集団主義的だと考えられており、これに対して、欧米人は個人主義的だと考えられています。
* 日本人は自己の主張・意見を抑えて、他者との『和』を重んじます。欧米人は他者との和よりも自己の主張・意見を大切にすると言われています。
* ところが、パリやローマ、ウィーンなどヨーロッパの都市を歩くと、数百年前の建物が今でも立ち並び、その高さ、大きさ、デザイン、色などが似かよっていて統一感のある街並みを作っていることに気が付きます。これに対して、日本の都市の街並みは、個々の建物が独自のデザインを競い合い、調和感がまったくない。アメリカはやや日本に近いが（ラスベガスなど）、それでもボストンやフィラデルフィアなどの伝統的な都市では個々の建物が調和を保っていて美しい街並みを作っています。
* このように街並みを見ると、日本は個人主義的で、欧米は集団主義的であると思われます。これはなぜなのだろうか。

**保守的と近代化**

* 日本の都市の多くは戦災で焼け野原になって戦後近代的なビルが立ち並んだ。戦後75年たって、それらのビルのほとんどは老朽化や、耐震性、使い勝手、再開発等の理由で、さらに近代的な高層ビルに生まれ変わっています。
* これに対してヨーロッパの戦災都市、ポーランドのワルシャワやドイツの多くの都市では、戦後焼け野原に近代的なビルを建てることなく、元の街並みを復元しました。特にワルシャワの復興では当時のビルの壁のひび割れまで忠実に再現することが目指されたそうです。これによってワルシャワの街並みは、1760年代に描かれた絵画とほぼ同じ街並みが再現されているとのことです。
* なぜヨーロッパは建物に関して保守的なのでしょう。これに対して、日本は建物については近代性を重視する傾向がとても強いように思われます。なぜなのでしょうか。

**景観を重んじるヨーロッパと景観を重視しない日本**

* ヨーロッパ諸国では一般的に街並みの景観規制が厳しくて近代的なデザインのビルは建てられません。パリのシャンゼリゼ大通り沿いに超高層ビルやガラス張りの近代的な建築物が建設されるなどということは考えられません。そのような建物は都市郊外の一定の地区に限り建設が認められているだけです。
* 日本の代表的な歴史都市である京都でさえも、古い家屋が取り壊されて近代的なビルやマンションが建てられています。（現在の京都駅やその真ん前にある京都タワーなどは、行政に景観を保全しようという意識がまったくないように思われる。）
* 日本でも江戸時代には身分や格式ごとに建物の規制が厳しく行われていました。商人はいくら財力があっても豪壮な門構えの家を建てることなどは禁止されていました。従って街並みには統一感がありました。明治時代になってこの身分・格式によるしばりがなくなると日本人は思い思いの建物を立てるようになった。特に戦後は、この度合いがより顕著になりました。
* イタリア・フィレンツェの市庁舎は14世紀初頭に完成した建物が今も使われている（ﾊﾟﾗｯﾁｨｵ･ﾍﾞｯｷｵ）。シエナの市庁舎も14世紀に完成した建物である（ﾊﾟﾗｯﾁｨｵ･ﾌﾟﾌﾞﾘｺ）。日本では、古い建物はいとも簡単に廃棄され近代的なビルに生まれ変わっている。
* ちなみに、私の住んでいる新宿区では、新宿区役所のビルは戦後の建物ですが、数年前に耐震補強して今も使っています。新宿区中央図書館は廃校になった中学校の校舎を耐震補強して今でも使っています。建物は高価なものなのでこうやって使い続けるという思想はとても良いと思います。
* なぜヨーロッパは景観の保全に積極的なのでしょう。それに比べて、なぜ日本は景観の保全に消極的なのでしょう。

**歩道橋とガードレール**

* 井上いわく、欧米では歩道橋というものを見たことがないとのこと。確かに私も記憶にないし、Googleマップで見ても、ホノルルにもマンハッタンにもパリにもない（全部の道を見たわけではないが）。ところが、日本では歩道橋があるのは日常的な光景であり、都市にはペディストリアンデッキというしゃれた名称の大型歩道橋がある。
* 参考まで、歩道橋は我が家(高田馬場)の周辺で2カ所ありますが、そのうちの1カ所は最近出来たもので車椅子用にエレベーターが付いています。
* 私（小林）はここでガードレールを思い出しました。ホノルルでもマンハッタンでもパリでもガードレールを見た記憶がありません。Googleマップを見てみると、やはりガードレールは見当たりません。
* 日本でも銀座通りや原宿・表参道にはガードレールはありませんが、これは例外的です。ガードレールは主要道路には普通に設置されています。私の感覚では、幹線道路で設置されていないことなんてまずないでしょう。我が家の周りでも、早稲田通りや明治通り、新目白通り、山手通り（環状6号線）にはガードレールがあります。
* 確かに歩道橋やガードレールがシャンゼリゼ通りにあったら興ざめです。やはりヨーロッパは街並みの景観を重視する文化が根付いているのでしょう。これに対して日本人は街並みの景観を軽視しているように思われます。しかし、歩行者の安全という面に関しては、日本人はより重視しているのでしょう。この考え方の違いはどこから来たのだろうか。

**病院で診察を受けるとき靴をはいたままベッドに横たわりますか？**

* 井上はリオデジャネイロで顎をけがをして何針か縫う手術を受けるとき、靴を脱いでベッドに横たわったら、ブラジル人の医者に「そんなとこで靴を脱いだらじゃまになる。履いたまま横たわれ」と怒られたそうです。井上は日本人であることを感じたとのこと。
* 日本の住宅では靴を脱いで一段高い床に上がるのが普通。井上自身この習慣がいつの時代からそうなったのか分からないと言っているが、われわれもこの習慣を日常においてほとんど意識したことがない。
* しかしながら、日本でも病院やホテル、会社のビル等々では靴をはいたまま入っていく。病院では靴を履いたまま診察室に入り診察を受ける。しかし、医者からベッドに横たわれと言われたら、我々は当然靴を脱ぐであろう。ホテルの部屋でもちょっとベッドで寝ころびながら本を読もうと思ったら、靴を脱いでベッドに横たわるであろう。（というより、部屋に入ったらまずスリッパに履き替え、そしてベッドに横たわるときはスリッパを脱ぐであろう。）
* 日本でも靴をはいたまま建物(住居以外)に入っていくのが普通なのに、なぜ日本人はベッドに横たわるときには靴を脱ぐのだろうか。

以上